



2018年版レスリングルールの要点について

2018年12月1日現在
UWW 世界レスリング連盟
公益財団法人日本レスリング協会
審判委員会

1 階級

シニア20歳～

[男子フリースタイル F S]

五輪大会 57kg・65kg・74kg・86kg・97kg・125kg
五輪以外 57kg・61kg・65kg・70kg・74kg・79kg・86kg・92kg・97kg・125kg

[男子グレコローマンスタイル G R]

五輪大会 60kg・67kg・77kg・87kg・97kg・130kg
五輪以外 55kg・60kg・63kg・67kg・72kg・77kg・82kg・87kg・97kg・130kg

[女子フリースタイル WW]

五輪大会 50kg・53kg・57kg・62kg・68kg・76kg
五輪以外 50kg・53kg・55kg・57kg・59kg・62kg・65kg・68kg・72kg・76kg

ジュニア18～20歳

F S 57kg・61kg・65kg・70kg・74kg・79kg・86kg・92kg・97kg・125kg
G R 55kg・60kg・63kg・67kg・72kg・77kg・82kg・87kg・97kg・130kg
WW 50kg・53kg・55kg・57kg・59kg・62kg・65kg・68kg・72kg・76kg

カデット 16・17歳

F S・G R 41-45kg・48kg・51kg・55kg・60kg・65kg・71kg・80kg・92kg・110kg
WW 36-40kg・43kg・46kg・49kg・53kg・57kg・61kg・65kg・69kg・73kg



2 競技システム

(1) トーナメント方式で実施し、決勝進出者に敗退した選手が敗者復活戦(REPECHAGE)出場権を得る。

◆ トーナメント表

は8の倍数(8・16・32・64)になるように組み、8の倍数にならない場合は予備戦を行い、インシヤル No. の多い側(下側)へ予備戦が配置される。
◆ 敗者復活戦の最終勝者が3位、敗者が5位となる。(3位・5位が2名となる。)

◆ 7位以降の順位は、勝ち点総数、勝ち点内容、総得点総失点により決定される。

◆ 各階級の試合は2日間で実施され、競技の前日に抽選、初日は、メディカルチェック・計量の後、準決勝まで、2日目は、計量の後、敗者復活戦、3位決定戦、決勝が行われる。

◆ 参加選手が16名を下回る場合は、1日制で競技を行う事もある。(当日の朝、メディカルチェック・計量・抽選)

◆ トップシード(T S 1~4)制を適用する場合、シード選手は原則予備戦なしで組合せが行われる。

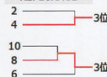
◆ 8名未満はノルディック方式となる。
○ 6名・7名の場合は、2プール制リョウ戦の後、クロス準決勝・3位決定戦・決勝を行う。例:丸数字は抽選番号
①→A ②→B ③→A ④→B
⑤→A ⑥→B ⑦→A

○ 6名未満は、総当たり方式とする。
2日制では、リーグ戦の最終ラウンドは2日目の実施となる。(3位は1名)

10名の例



REPECHAGE



(2) 勝ち点は以下のとおりである。

VFA	VICTORY BY FALL フォールによる勝利
5:0	
VIN	VICTORY BY INJURY 負傷棄権の試合による勝利
5:0	If an athlete is injured before or during a bout
VCA	VICTORY BY 3 CAUTIONS 警告3回による勝利
5:0	3 cautions given to the opponent during a bout
VSU	VICTORY BY TECHNICAL SUPERIORITY テクニカルフォール敗者ポイント無し
4:0	Without any point scored by the opponent
VSU1	VICTORY BY TECHNICAL SUPERIORITY テクニカルフォール敗者ポイント有り
4:1	With point(s) scored by the opponent
VPO	VICTORY BY POINTS 判定 敗者ポイント無し
3:0	Without any point scored by the opponent
VPO1	VICTORY BY POINTS 判定 敗者ポイント有り
3:1	With point(s) scored by the opponent
VFO	VICTORY BY FORFEIT 不戦勝 棄権試合による勝利
5:0	If an athlete doesn't show up on the mat
DSQ	DISQUALIFICATION 罰則による失格
5:0	before or during the bout for unfair behavior
2DSQ	DOUBLE DISQUALIFICATION 両者失格
0:0	both wrestlers disqualified due to infractions

(4) 技術点評価(反則点)

F S <男子フリースタイル>

WW <女子フリースタイル>

1点	・場外ポイント ・テイクダウンされてから反撃の"ゴビ"ポイント ・アクティビティ"リフト"30秒後、無得点時の罰則 ・チャレンジ失敗<相手に1点>
2点	・テイクダウン・ガッツレンチ・アングルホールド ・デンジャーポジション・コレクトホールド(移動ポイント)
4点	・スモールアンプリフトでダイレクトデタッチャーポイント ・グランドアンプリフトでノーデタッチャーポイント
5点	・グランドアンプリフトでダイレクトデタッチャーポイント
反則	○ + 1が原則 ・パネルでデタッチャーポイントで場外逃避は○ + 2

3 得点システム

(1) フォールがない場合、3分2ピリオドのトーナルポイントで勝敗を決定する。技術展開によって得点差が規定の数(FS10点・GR8点)になった場合、その技術展開が終了した時点でテクニカルフォールが成立し、試合終了となる。

(2) 同点時の勝者決定手順

- ① 得点価値の高さ(ビッグポイント)
- ② 警告が少ない選手(コーション)
- ③ 最終ポイントを獲得した選手(ラストポイント)

(3) 3回の警告(コーション:○)を受けた者は敗者となるが、グレコローマンスタイルにおける防衛者の足(脚)の反則【レッグファウル】は、一回目○ + 2、二回目の反則を犯した時点で試合終了、反則者は敗者となる。

G R <グレコローマンスタイル>

1点	・場外ポイント ・オグランドパネル適用時に積極的レスラーに1点 ・チャレンジ失敗<相手に1点>
2点	・テイクダウン・ガッツレンチ ・デンジャーポジション ・コレクトホールド(移動ポイント)
4点	・スモールアンプリフトでダイレクトデタッチャーポイント ・グランドアンプリフトでノーデタッチャーポイント
5点	・グランドアンプリフトでダイレクトデタッチャーポイント ○ + 2が原則
反則	・攻撃者の反則は一回目注意、二回目○ + 1 ・防衛者の足の反則一回目○ + 2

4 チャレンジシステム (VIDEO判定要請)

- (1) 審判団(マットチェアマン・フェリー・ジャッジ)はコンサルテーションによりビデオを使用する事が出来ない。
- (2) コーチ(センド)は1試合に1回、チャレンジ(ビデオ判定)を審判団に対して要請できる。
- (3) コーチ(センド)はコーナー色のスポンジ(CUBE)を投げ入れて「チャレンジ」を要請する。
※センドの要請に対して選手がチャレンジを拒否する事もできる。
- (4) マットチェアマンはチャレンジを確認したら、試合がニュートラル状態であることを確認し、試合を止める。
- (5) 両コーナーのセンドと共にVTRを見る審判員は、ジュリー2名とマットチェアマンとする。ポイントはジュリーが提示し、プラスポイントはマットチェアマンが提示する。チャレンジにおけるジュリーの判定は最終決定。
- (6) チャレンジが認められた場合は、得点が修正され再度チャレンジ権が認められる。
- (7) チャレンジが認められない場合、対戦者に1点が入りその試合のチャレンジ権を失う。
- (8) チャレンジの結果、相手の得点が増えた場合はチャレンジ失敗となる。
- (9) ジュリーは各大会で大会会長または、その目的のために指名された審判が行う。



5 消極的選手の摘発

(1) フリースタイルの場合

- ① 試合は中断され、最初の「パッシブ」が口頭で与えられる。 ※ パッシブ(正式にはパッシビティー-passivity)
- ② 同様に2度目の「パッシブ」を受けた場合、アクティビティペリオドとして「30秒の計時」が行われ、その30秒間にどちらの選手にもポイントが入らなかつた場合、アクティビティペリオドを課されたレスラーの相手に1点が与えられる。(コージョンなし)
- ③ アクティビティペリオド30秒間が経過した時点で、レスラーは試合を止めずに1点を成立させる。アクティビティペリオドの間も技術回避等の行為は摘発され、防衛側のコージョンが成立する場合がある。
※第1ピリオド開始2分後に0:0のスコアである場合、審判団は消極的なレスラーを指定する必要がある。
※各ピリオド終了30秒未満に、審判団3人すべてがレスラーの技術回避に同意すると、ダイレクトに○+1が成立する。

(2) グレコロマンスタイルの場合(オールドバーテレは1試合に2回まで適用され、1ピリオドに2回も可能である。)

① 最初のパッシビティ(何れかの選手に拘らず)

積極的なレスリングを実施している選手に1ポイントを与え、その選手が、「スタンディング」または「バーテレポジション」でのレスリングを選択できる。時間の設定はされていない。

② 2回目のパッシビティ(何れかの選手に拘らず)

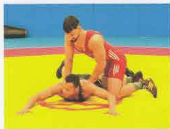
積極的なレスリングを実施している選手に1ポイントを与え、その選手が、「スタンディング」または「バーテレポジション」でのレスリングを選択できる。時間の設定はされていない。

③ 3回目及びそれ以降のパッシビティ(何れかの選手に拘らず)

積極的なレスリングを実施している選手に1ポイントを与え、試合は停止されない。

※試合時間の短いU15やカデットも同様に適用される。

オールドバーテレポジション (全てのスタイル)



6 ルール変更についての発表事項

2018.3.15 UWW審判クリニック JWF4月2日発表

- コンサルテーションの際、VTRを見ることは廃止とする。
- 全スタイルにおいて粗暴行為を繰り返した選手に対しては、「レッドカード」を与える。
- GRのオールドバーテレ(ピリオド1回、1試合2回まで)
- グレコロマンスタイルのパッシブの摘発(上下の選択)同時時、どちらかの選手が明らかに攻撃的な場合。得点をリードしている選手が余りにも防衛的な場合。
※各ピリオド1回・1試合で2回までとする。
・時間の設定は廃止する。
{0-0の場合の2分・4分30秒の設定は廃止する。}
{以降の消極的な選手に対してはP+1が入る。}
{その際、試合は止めない。}
- GRで防衛者のレッグファウルは、二度で敗者となる。
 - ① 攻撃者の足の反則 ② 防衛者の足の反則
 - 1回目注意 1回目○+2
 - 2回目○+1 2回目失格
- FSの警告は○+1、GRの警告は○+2を原則とする。
- パッシビティとネガティブレスリングを区別する。
- 「パッシビティは、ペナルティ適用(各スタイル毎に異なる)」

例・反撃無しの攻撃回避

- ・相手の手首を握り、攻撃を始める
- ・相手とコンタクトをしないで攻撃する
- ・攻撃をした後すぐに、元のポジションに戻る
- ・嘘のアタック
- ・ゾーンに逃げ(下がって)留まる

- ・センターでコントロールしない(センターで試合をしない)
- ・相手をゾーンに留める(ゾーンに追い込む)
- ・良いポジションにも関わらず、攻撃しない
- ・守備的なレスリング(守ってばかり)

【ネガティブレスリングは、警告(○+_)の対象】

例・ブロックング ・ヘッドダウン[上半身を起こさない]

- ・スタンドレスリングでオープンを避ける
- ・指のロック
- ・相手の胸に頭をつけ続ける
- ・シミュレーション

2018.9.1発効 UWW8.22発表 JWF9月6日発表

- ・スクールボーイ→U15
- ・オールドバーテレ(47条) GR
 - 1試合で2回まで適用され、1ピリオド2回も可能。
- ・オールドバーテレのフライング(45条)
 - [FS] ①攻撃側の選手が2回フライングをした場合、ペナルティ無しでスタンドから開始。
 - ②防衛側の選手が2回フライングをした場合、○+1で再度バーテレで開始。
 - [GR] ①攻撃側の選手が2回フライングをした場合、ペナルティ無しでスタンドから開始。
 - ②防衛側の選手が2回フライングをした場合、○+2で再度バーテレで開始。
- ・プッシュの反則(39条)
 - プッシュは、ノーポイント・ノーペナルティでセンター再開。

2018.10.21 UWW発表 JWF 11月9日発表

- ・カビざまが禁止技とされた。
- 以上